

1) 大会概要

- ・目的：知的障がい者による柔道の普及発展と、さまざまな人が互いに尊重し支えあう社会作りを目指し、更なる目標を得る機会とする。
- ・日時：平成30年9月16日(日)～17日(月・祝)
- ・場所：日本文化大学 立志館(東京都八王子市片倉町977)
- ・主催：全日本柔道連盟
- ・後援：全日本知的障がい者スポーツ協会、スペシャルオリンピックス日本、日本文化大学
- ・参加選手：12府県から男性28名、女性6名

2) スケジュール

【9月16日(日)】

●13:00～15:00 交流練習会(クラス分け)

- ・選手、指導員、大学生が一緒になって合同練習し、交流すると同時に、知的障がい者柔道の練習プログラムを体験的に学ぶ時間となった。
- ・同時に大会役員は試合に出る参加者の動きを観察し、翌日の試合のリーグ作りのための選手の力量を測る時間でもある。
- ・翌日の試合に出ない人も一緒に練習し、次回への足がかりとなる意味でも有意義な時間であった。



寝技のような体勢で、お互いがボールを取り合う。



帯につけた色帯を取る。指導員も一緒になって、指示の理解度、俊敏性などを把握する。

【9月17日(月・祝)】

●10:00 開会式

- ・招待された団体の代表の挨拶、選手宣誓のほか、山下泰裕会長のビデオメッセージがあり参加選手を鼓舞した。

●10:45 試合

- ・初日のクラス分けにより男性7グループ、女性2グループが作られ、その一グループがひとつのリーグとなつて、2日目に試合が行なわれた。
- ・試合は、前日の審判・指導者会議で、安全に配慮した運営を行うことが確認されたうえで、今回の申し合わせ事項に基づき行なわれた。



大勢の来賓、選手、指導者、家族、報道陣などが見るなか熱戦が繰り上げられた。



●12:00～13:00 休憩(ダンス披露)



昼休憩ではダンスチームと一緒に踊る選手も。和やかで友好的な雰囲気が演出された。

●14:00 表彰式

- ・表彰式ではすべてのリーグごとに行なわれ、スペシャルオリンピックス同様1～3位だけでなくすべての参加者にメダルが授与された。



順位に関わらずメダルを誇らしげに見せる選手の表情が印象的であった。



大会終了後撮られた全体集合写真。

